

事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 芸術小ホール管理運営事業
政策名: 1 ひとを育てる、守る
施策名: 6 施策6 文化・芸術活動の充実
所属部: 教育委員会
所属課: 生涯学習課
課長名: 津田智宏
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業開始の経過、事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
芸術小ホールは、昭和51年2月25日に社会教育委員の会より教育委員会へ答申された「国立市における社会教育施設のあるべき姿との配置及び施行の優先順位についての答申」を受け、昭和62年11月に開館、財団法人くたち文化・スポーツ振興財団による管理運営のち、平成18年指定管理者制度導入により、特定指定管理者としてくたち文化・スポーツ振興財団を継続指定し、運営している。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成25年度の実績(平成25年度に行った主な活動)
特定指定管理者との年度協定締結 舞台機構操作盤修繕 特殊建築物等定期調査 舞台照明賃借料支払(調光卓賃借) 運営備品購入(I/Oパッチ盤、パワードスピーカー等)

(2) 各指標等の推移
Table with columns: 名称, 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 施設利用件数, 施設利用者数, 施設面積, 人口(4月1日現在), 施設利用件数, 施設利用者数, 過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合, 過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合

(3) 事務事業コストの推移
Table with columns: 名称, 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 正規職員従事人数, 延べ業務時間, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F), 物件費, うち委託料, 維持補修費, 物に係るコスト計(G), 扶助費, 補助費等, 繰出金, 移転支的コスト計(H), その他, 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 国庫支出金, 都支出金, 分担金及び負担金, 使用料及び手数料, 繰入金, その他, 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合

2 評価の部(CHECK) \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
成果の向上余地
廃止・休止の成果への影響
類似事業との統廃合・連携の可能性
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
設備の経年劣化は著しく、メーカーによる耐用年数を大きく超えていることから、利用者からも改修の要望が多くある。
事業費の削減余地・歳入の確保
効率性
公平性評価
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
開館から25年以上が経過し、施設及び設備の経年劣化が著しく、維持管理費は増加傾向にある。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 1次評価者としての評価結果
公共関与と妥当性: 適切
有効性: 適切
効率性: 適切
公平性: 適切
(2) 全体総括(振り返り、反省点)
開館から25年以上が経過し、設備の経年劣化が著しい。総合体育館の改修工事に合わせて、照明、音響、舞台設備について、平成26年度に改修工事を行うこととなったことは、利用者サービスの向上につながるものである。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4) 改革・改善による期待成果
Table with columns: 削減, 維持, 増加
Rows: 向上, 維持, 低下

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
(6) 上記(3)で現状維持をチェックした場合、この事務事業はどのような状態となれば見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 7 芸術小ホール文化芸術振興事業
政策名: 1 1ひとを育てる、守る
施策名: 6 施策6 文化・芸術活動の充実
所属部: 教育委員会
所属課: 生涯学習課
所属係: 社会教育・体育担当
課長名: 津田智宏
法令根拠: くにたち市民芸術小ホール条例

事務事業の概要(事業開始の経過、事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
芸術小ホールは、昭和51年2月25日に社会教育委員の会より教育委員会へ答申された「国立市における社会教育施設のあるべき姿との配置及び施行の優先順位についての答申」を受け、昭和62年11月に開館。財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団による管理運営のち、平成18年度より、特定指定管理者制度が導入されたため、施設の維持管理には指定管理料を支払い、公益目的事業については補助金を交付している。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成25年度の実績(平成25年度に行った主な活動)
自主・共催事業34事業を実施 入場延人数7,373人
平成26年度の事業計画(平成26年度に計画している主な活動)
25年度と同程度
対象(誰、何を対象にしているのか)\*人や自然資源等
市民
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
文化・芸術により多く触れることで、より豊かな人間性を涵養
結果(どんな結果に結び付けるのか)
文化・芸術活動の充実

(2) 各指標等の推移
Table with columns: 名称, 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 活動指標(事業数, 来場者数), 対象指標(施設面積, 人口), 成果指標(事業数, 来場者数), 上位成果指標(過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合, 過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合)

(3) 事務事業コストの推移
Table with columns: 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 人に係るコスト(正規職員従事人数, 延べ業務時間, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F)), 物に係るコスト(物件費, うち委託料, 維持補修費, 物に係るコスト計(G)), 移転支出的なコスト(扶助費, 補助費等, 繰入金, 繰出金, 移転支出的なコスト計(H)), その他, 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 収入内訳(国庫支出金, 都支出金, 分担金及び負担金, 使用料及び手数料, 繰入金, その他, 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合)

2 評価の部(CHECK) \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性: 見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?
成果の向上余地: 向上余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?
廃止・休止の成果への影響: 影響無 [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
影響有 [その内容]
市民が文化芸術に触れる機会が減ってしまうため、市民にとって有益ではない。
有効性評価: 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?(そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?)
類似事業との統廃合・連携の可能性: 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 3 改革・改善方向の部に反映
統廃合・連携ができる [以下に理由を記入]
統廃合・連携ができない [以下に理由を記入]
他に手段がない [以下に理由を記入]
類似事業はない。
活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
企画部門に配置したディレクターにより、意欲的な事業が展開され、来館者からの評価も高い。今後も施設規模に見合った、質の高いプログラムを提供し続けることが重要であるが、専門的なスタッフの拡充も課題となる。
事業費の削減余地・歳入の確保余地: 事業費削減(歳入確保)余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
事業費削減(歳入確保)余地がない [以下に理由を記入]
平成25年度から準備を開始したアートビエンナーレ事業については、寄付金や協賛金を募れるよう、財団自体が積極的に動いおり、一定以上の成果が出ている。ただし、恒常的に得られるものではないため、現状の補助金額を削減することは困難である。
効率性評価: 人件費(延べ業務時間)の削減余地: 削減余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
削減余地がない [以下に理由を記入]
現状、最低限の事務事業時間である。
より方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)
公平性評価: 受益機会・費用負担の適正化余地: 見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
公平・公正である [以下に理由を記入]
だれもが利用でき、公平・公正である
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
事業の質を一定に保ちつつ、新たな試みを打ち出し続けることは、一人のディレクターだけで可能なものではなく、専門性を持った職員の、さらなる配置が望まれる。事業費の増大が課題となる中、アートビエンナーレ事業など、新たな試みを実践しながらも、寄付や協賛を得られるよう財団としても努力を重ねている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 1次評価者としての評価結果
Table with columns: 公共関与と妥当性, 有効性, 効率性, 公平性
(2) 全体総括(振り返り、反省点)
ホールでのイベントは客席数と対価との関係で、相当の制約を受けるものの、「小ホール」ならではの企画に工夫がみられる。質の高いプログラムを「気軽」に「本物を楽しめる」機会として提供し続けられている。また、アートビエンナーレのように新たな試みの中、寄付や協賛を得られるよう、財団としても努力を重ねている。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
Table with columns: 削減, 維持, 増加
Rows: 廃止, 休止, 事業統廃合・連携, 事業のやり方改善(有効性改善), 事業のやり方改善(効率性改善), 事業のやり方改善(公平性改善)
(4) 改革・改善による期待成果
Table with columns: 向上, 維持, 低下
Rows: 削減, 維持, 増加

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
(6) 上記(3)で現状維持をチェックした場合、この事務事業はどのような状態となれば見直し・廃止となりますか?
より多くの市民に興味関心を持ってもらえるよう、プログラムの質を高め、かつ多く提供していかなくてはならない。そのためには、専門的なディレクターが1名では心もとなく、スタッフの拡充が課題となる。アートビエンナーレ事業でも努力している寄付や協賛を得られる努力を重ねることも今後の課題ではある。

事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: くにたち市民文化祭開催事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 6 施策6 文化・芸術活動の充実
所属部: 教育委員会
所属課: 公民館
課長名: 石田 進
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業開始の経過、事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
くにたち市民文化祭は、昭和31年に公民館の呼びかけによって始められた。以後毎年4月に市民が実行委員会を結成し、参加サークルを募り10月から12月にかけて、市内公共施設(公民館、福祉会館等)を使用して、自分たちのサークル活動の成果を発表している。公民館は事務局として、会場確保(申し込みを含む)、設営、消耗品購入、印刷物の製作、物品の搬送、記録集の刊行等の支援を行っている。参加サークルは、芸術、芸能を中心に国際交流、市民活動など多岐にわたっている。新規参加のサークルも増えてきているが、課題としては、公民館以外の会場使用について、今後利用料金が発生することが考えられ、その予算の検討が必要である。本事業は、あくまで市民のサークル同士が成果を発表する中で交流することを目指し、人間関係を豊かにして、地域社会の文化活動を活性化することにある。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成25年度の実績(平成25年度に行った主な活動)
予算計上、市民文化祭実行委員会立ち上げ呼びかけ、実行委員会開催、参加サークル集約、会場確保、消耗品購入・配布、合同イベント開催、開催式典実施、反省会開催、記録集編集・発行
平成26年度の事業計画(平成26年度に計画している主な活動)
25年度に準じる。
対象(誰、何を対象にしているのか)\*人や自然資源等
日常的に文化・芸術活動、芸能活動、市民活動を市内を中心に展開している市民サークル
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
サークル間の交流を活発にする。
結果(どんな結果に結び付けるのか)
市民が、文化・芸術活動に親しむ、文化活動等に参加してみたいと思う市民と、既存のサークルを結びつける。自分たちでサークル活動ができる機会を提供する。

(2)各指標等の推移

Table with columns: 名称, 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 活動指標(実行委員会開催回数, 会場使用数), 対象指標(市民サークル数), 成果指標(参加団体・サークル数, 新規参加サークル数), 上位成果指標(過去1年間に文化・芸術活動を鑑賞した市民の割合, 過去1年間に文化・芸術活動をおこなった市民の割合)

(3)事務事業コストの推移

Table with columns: 単位, 平成22年度(決算), 平成23年度(決算), 平成24年度(決算)(A), 平成25年度(決算見込み)(B), 平成26年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 人に係るコスト(正規職員従事人数, 延べ業務時間, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F)), 物に係るコスト(物件費, うち委託料, 維持補修費, 物に係るコスト計(G)), 移転支出的なコスト(扶助費, 補助費等, 繰出金, 移転支出的なコスト計(H)), その他(その他), 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 収入内訳(国庫支出金, 都支出金, 分担金及び負担金, 使用料及び手数料, 繰入金, その他), 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合

2 評価の部(CHECK)\*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

Table with columns: 公共関与の妥当性, 成果の向上余地, 廃止・休止の成果への影響, 類似事業との統廃合・連携の可能性, 活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価, 事業費の削減余地・歳入の確保, 効率性評価, 公平性評価
Each row contains checkboxes for '妥当性', '向上余地', '影響', '統廃合・連携', '削減余地', '見直し余地', '公平・公正' and a '3 改革・改善方向の部に反映' column.

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

Table with columns: (1) 1次評価者としての評価結果, (2) 全体総括(振り返り、反省点)
(1) includes checkboxes for 公共関与の妥当性, 有効性, 効率性, 公平性.
(2) includes text: 開始から半世紀を経過し、18年度から補助金事業としてではなく公民館予算に組み込まれた事業となっている。参加団体の中には、世代交代に対応できず高齢化が進んでいることも否めない。ただし、新規参加団体も増えてきており、今後は、事業の拡大と活性化、世代間の交流を図ることも念頭に入れる必要がある。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

Table with columns: 廃止, 休止, 事業統廃合・連携, 事業のやり方改善(有効性改善), 事業のやり方改善(効率性改善), 事業のやり方改善(公平性改善), 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
Includes a small table for '成果' with columns: 向上, 維持, 低下 and rows: 削減, 維持, 増加.

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

団体の活発な活動については、日ごろからの活動を見学できるようにしくみをつくり、新しいメンバーの増員をしやすくすることも必要であると考えます。また、魅力ある新たな文化祭の形態の追求(参加団体間の交流など)もしくは、新たな企画(文化・芸能の講座など)を盛り込むなど、毎年参加している団体の意見と協力を仰ぎながら検討していく必要もある。そこから事業の拡大、活性化、効率化が進むと思われる。

(6) 上記(3)で現状維持をチェックした場合、この事務事業はどのような状態となれば見直し・廃止となりますか？